

平成 18 年度／第 3 回 理事会 議事録

日 時：平成 18 年 10 月 13 日（金） 15 時～17 時

場 所：自動車会館 1 階会議室

出席者：野嶋 孝会長，仁田且三会長代理，滝沢照広・青嶋義晴・日高邦彦・田井一郎 各副会長，内藤雄順・片岡和久・大木義路・石井 勝 各常務理事，村岡泰夫専務理事，岡本達希・池田久利・宮道壽一・齋藤涼夫（代理：林 洋一氏）各部門長，奥山雅則 E 準部門長，吉川照一（代理：長谷川豊純氏）・中村秋夫・岩原正吉・八木重典・奥村浩士（代理：川原耕治氏）・大西徳生・和田 清 各支部長，佐藤裕雄・福永定夫 各監事

説明者：加藤政一氏（ICEE 日本委員会委員長）

オブザーバ：川北浩司，小林昌三，小山泰史，花井浩一

事務局：島田敏男事務局長，神尾知幸事務局長代理，細川 亮，会田 宏，槌屋孝司，紀国谷 隆，森 正美，小笠原勝彦，板橋忠幸

配布資料

平成 18 年度／第 2 回理事会 議事録（案）

1. 寄付金活用方針（使途の指定なし）と今後の募集継続について（案），平成 17 年度／寄付金（使途の指定なし：559 万円）の具体的使途について（案）
2. 一般会計・有価証券の基金化等について
3. 広報委員会の再設置について
4. 電気学会電子投稿・査読システムの導入費用および保守費用について
5. 役員等の選出スケジュールなどの申し合わせ
6. 理事会選定の若干名の表彰投票有権者について
7. 第 95 回通常総会 開催日程（案）／「第 95 回通常総会における特別講演の演題および講師」ご提案のお願い
8. IEEE との協定書の更新について／IEI（India）との協定書締結の構想について
9. IC EE2008 実行委員会構成（案）
10. 平成 18 年度 上級会員候補者の承認について
11. IEEJ プロフェッショナル候補者の資格認定について
12. 電力・エネルギー部門（B 部門）代表評議員の交代について
13. 経営戦略会議 運営要綱（修正案）
14. 企画委員会 運営要綱（修正案）
15. 総務会議 運営要綱（修正案）
16. 次期部門長設置に伴う細則・関係規程類の改定【提案】
17. 総務・規程 1-0-3「会議・委員会等出席者の交通費に関する申し合わせ」の改定について
18. 「部門，準部門の新設，廃止及び昇格，降格等に関する規程（申し合わせ）（総務・規程 1-0-5）」改正のご提案
19. 2006 年 7 月～2006 年 9 月会員入（退）会の承認について
20. 国債購入について
21. CPD システム試験運用開始のご報告とご協力のご依頼
22. フェロー制度の運用開始と候補者ご推薦のお願い
23. 海外在住の外国人会員増員のためのメリット検討に伴うアンケート調査の実施について（ご報告）
24. 「My ページを見て上級会員になろうキャンペーン」の実施（ご報告）
25. 全国大会委員会運営要綱改訂（「全国大会委員会小委員会」設置）に伴う上級会員ポイ

- ントの変更（追加）
26. 事業概況報告（平成 18 年 9 月末日現在）
 27. 役員候補者選定・選出規程細目／部門役員候補者選定・選出規程細目／支部役員候補者選定・選出規程細目
 28. 平成 18 年度『電気学会主催 公開シンポジウム』開催について
 29. 「平成 19 年表彰」受賞候補者ご推薦のお願い

議事概要

開会に先立ち、事務局から定款第 30 条（理事会の定足数等）に基づき、本理事会は出席理事 23 名（代理出席 2 名を含む）で成立条件の定足数（理事現在数の 2 分の 1 以上：13 名以上）が満たされている旨の報告があり、定刻より内藤総務企画理事の議事進行により議案の審議を開始した。

1. 会長挨拶

審議事項と報告事項を明確に区別して、効率的な議論をお願いするとの挨拶があった。

2. 前回議事録の確認

資料「平成 18 年度／第 2 回理事会議事録（案）」に基づき、内藤総務企画理事から事前に配布してすでに確認頂いているため、その後の修正箇所等の有無を確認した結果、異議なく承認された。

3. 審議事項

3.1 平成 17 年度ご寄付金（使用目的のご指定なし）の活用およびご寄付金募集の継続

（1）平成 17 年度ご寄付金（使用目的のご指定なし）の活用について

花井アシスタントから、資料 1 「寄付金活用方針（使途の指定なし）と今後の募集継続について（案）」に基づき、平成 17 年度／寄付金（使途の指定なし：559 万円）の具体的使途について（案）」に基づき、寄付金（使途の指定なし）活用にあたっての基本的考えとそれに沿って選考した 3 件（合計 245 万円）の提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

（2）寄付金募集の継続について

花井アシスタントから、資料 1 「寄付金活用方針（使途の指定なし）と今後の募集継続について（案）」に基づき、一般寄付の募集はその継続性に留意し、今後も年会費をお支払い頂く時期に合わせ会員の皆様等を対象にご寄付のご案内を差し上げたいとの説明があり審議の結果、原案どおり承認された。

また、具体的な活用策を例示するなど工夫を凝らした上でご案内することとし、ご案内のチラシの文案等は総務会議に一任することとした。

なお、審議にあたり青嶋副会長から、寄付金とは別途に収支差額の一部を部門の活動資金として平成 19 年度予算編成に織り込んでいるとのコメントがあった。

（3）その他

創立 125 周年記念行事へ向けてのご寄付募集（指定寄付）および表彰委員会を中心に検討が開始された「電気を志す学生向け奨学金制度」の紹介があった。

3.2 一般会計・有価証券の基金化等の提案

内藤総務企画理事および神尾事務局長代理から、資料 2 「一般会計・有価証券の基金化等について」に基づき、ご寄付頂いた有価証券について、これまで一般会計となっていた有価証券（不特定株 251,140 株）を特別会計・指定正味財産として学術振興基金に組み入れたいとの提案があり審議の結果、原案どおり承認された。

3.3 広報委員会の再設置および組織の位置づけ

村岡専務理事から資料3「広報委員会の再設置について、他」に基づき、提案があり審議の結果、部門・支部等の代表と国際活動委員会から委員を追加することとし、広報委員会の再設置が承認された。

なお、広報委員会の検討事項にふさわしいものがあれば、滝沢委員長（副会長）または村岡副委員長（専務理事）まで連絡頂くこととし、別途運営要綱等を策定し、審議頂くこととした。

【主な意見（ご参考）】

- ・事務局体制の確立など本腰を入れて取り組むべき大きな課題である。
- ・問題点の整理、運用マニュアルなどのルール作りを検討しなくてはならない。
- ・国際会議等を広報する場合、他委員会等との接点を検討してほしい。
- ・ICEE など社会一般への広報では内と外の対応を合わせて検討する必要がある。
- ・注力すべきテーマを選定する仕組みを検討してほしい。

3.4 電子投稿・査読システムの構築

日高副会長から資料4「電気学会電子投稿・査読システムの導入費用および保守費用について」に基づき、次のとおり提案があり審議の結果、コストパフォーマンスを明確にしておくためメリット・デメリットなどを含め、仕様書を精査の上、進めていくことを条件に繰越金からシステム完成予定の平成21年1月までの費用として、33,320,000円充当することが承認された。

なお、校閲と査読の見合いを考慮し、会員サービス向上のため学会誌も今回の対象とすることを視野に入れることとした。

- ・電子投稿・査読システムについては、現在稼働中のD部門のシステムを他部門に展開する形で構築が進んでおり、平成19年1月にA部門が試行を開始する。
- ・その後、平成20年1月には希望する他部門でも試行を開始し、平成21年1月からは本格実施となる予定である。
- ・本システムの導入費用と保守費用については、開発及び作業を担当する予定の有限会社Athenergyの見積もりによれば、合計33,320,000円となっている。
- ・平成21年1月までの費用合計33,320,000円を繰越金から支出したい。
- ・学会誌については、それほど査読のやり取りがないため今回のスコープには入れなかった。
- ・担当業者は、将来的につながりを持たせる意味で、D部門の電子投稿・査読システムを開発した有限会社Athenergyへ発注することとしたい。
- ・費用対効果の面では、論文（査読）委員会の開催が必要なくなり、そのため査読委員の旅費・郵送料・事務局人件費がゼロに近づく見込みであり、概算ではあるが現行投稿料が半額程度に下げられるとの試算結果が出ている。また、査読期間のスピードアップも図れる。

【主な質疑：Q、A／意見：C（ご参考）】

Q：過去にJSTの電子投稿だけに対応するシステムがあったが、その問題点を明確にしておくべきではないか？

A：JSTのシステムは、あくまでも電子投稿だけに限定されたシステムで電子査読までは対応できないものであった。

C：カスタマイズ費用についても契約書に明記しておくべきだ。

C：ieeシステムとは切り離して管理するなど、情報漏えい防止に注力しなければならない。

C：編修会議マターの案件ではあるが、競争見積もりが必要ではないか。

3.5 平成19年度本部役員等の選出スケジュール

村岡専務理事から、資料5「役員等の選出スケジュールなどの申し合わせ、他」に基づき説明があり審議の結果、平成19年度役員等の選出スケジュールが確認された。

3.6 平成19年度表彰有権投票者の選定

事務局から、資料6「理事会選定の若干名の表彰投票有権者について、他」に基づき、次のとおり説明があり審議の結果、事務局の提案どおり28名の理事会選定の表彰投票有権者が承認された。

- ・表彰委員会およびその下部組織である進歩賞小委員会・論文著作賞小委員会では、それぞれの賞の予選・決定投票を行うために「表彰委員会 運営要綱（総務・運要4）」により、表彰投票有権者を選定することとなっている。
- ・多くの表彰投票有権者は、規程により学会内の役職等で自動的に選定されることとなるが、「理事会選定による投票有権者の申し合わせ（総務・規程4-1-1）」により、①前3期の会長殿・副会長殿（合計15名）、②現監事殿（2名）の他に、理事会において学会内の役職で自動的に選定される皆様以外に有識者の立場で投票有権者（20～30名）を選定頂くこととなっている。
- ・平成19年表彰の実施に伴い、投票有権者に選定されていない主要な研究所、学校、企業等からの選定および各支部の会員数に対する投票有権者のバランスを考慮の結果、会員の中から28名の有識者候補を選出した。
- ・この有識者28名を含め、合計208名（重複者5名を除く）の表彰投票有権者によって、平成19年のすべての賞の決定投票が行われることとなる。

3.7 第95回通常総会開催要領および特別講演演題募集

事務局から、資料7「第95回通常総会 開催日程（案）／『第95回通常総会における特別講演の演題および講師』ご提案のお願い、他」に基づき、提案があり審議の結果、開催日程については提案どおり承認された。

また、特別講演については、研究経営役員を中心に取りまとめ頂くこととし、ふさわしい演題・講師の候補があれば、11月末日までに事務局（総務課）宛に提案頂くこととした。

3.8 IEEEとの協定書の更新／IEIとの協定の構想

紀国谷課長から、資料8「IEEEとの協定書の更新について／IEI（India）との協定書締結の構想について、他」に基づき説明と報告があり審議の結果、次のとおり進めることが条件付きで承認された。

また、今後本件と同様な案件は、理事会においては報告事項へ変更するため、規程を改正する方向とすることが確認された。

（1）IEEEとの協定書の更新

国際活動委員会での審議を経て、修正案に意見を付けて先方へ提出した結果、概ねOKとの回答があったが、正式な回答はまだ届いていないため、IEEE本部からの正式な回答が修正案の趣旨に影響を与えない範囲であれば10月末日を目途に更新を行う。ただし、IEEE本部からの正式な回答が修正案の趣旨に影響を与える範囲であった場合は、事務局で再度検討の上、平成18年12月理事会に再度お諮りする。

（2）IEIとの協定の構想【報告】

調査・規程5-2「協定に基づく外国学会との交流規程細目」第4条第2.項の規定に基づき、協定書の締結について国際活動委員会で審議し、平成18年12月の理事会へお諮りし、先方の要望に沿うとすると平成18年12月22日～24日頃、インドでformal signingを行うスケジュールとなる。

3.9 ICEE2008年沖縄大会実行委員会組織体制

加藤政一 ICEE日本委員会委員長から、資料9「ICEE2008実行委員会構成（案）、他」に基づき、ICEE2008実行委員会の構成（案）について提案があり審議の結果、委員長・副委員長など委員構成の大枠が承認された。

3.10 平成18年度上級会員の認定

滝沢副会長から、資料10「平成18年度 上級会員候補者の承認について」に基づき各部門・支部から推薦があった候補者について、上級会員資格審査委員会を開催し、厳正に審査した結果、今年度は110名が上級会員の認定資格を満たしているとの説明があった。審議の結果、平成18年度は候補者110名が上級会員として認定された。

審議にあたり、会員で上級会員の資格がある方には、電気学会からその旨をお知らせして申請してもらえば上級会員数を増やせ、会員サービスにもなるのではないかと、また、My ページで上級会員資格点数を各会員が確認できるなどの仕組みを考えてはどうか等の意見があり、事務局から現状のiee-システムでは対応できず、在会年数が30年を超えた会員の方への自動的な通知などを含め、次のシステム更新の際に考慮したいとの回答があった。

3.11 IEEJ プロフェッショナル資格認定

事務局から、資料11「IEEJ プロフェッショナル候補者の資格認定について、他」に基づき、次のとおり説明があり審議の結果、9名がIEEJ プロフェッショナルとして認定された。

- ・平成18年度／第1回IEEJ プロフェッショナル資格認定審査（平成18年8月24日開催）までに9件の申請があった。
- ・平成18年度／第1回IEEJ プロフェッショナル資格認定審査（平成18年8月24日開催）および平成18年度／第2回総務会議（平成18年9月20日開催）において、総務・規程1-10-1に基づき厳正に審査した結果、9名がIEEJ プロフェッショナルの認定資格を満たしていることを確認した。

3.12 B部門代表評議員の交代

池田B部門長（代行：事務局）から、資料12「電力・エネルギー部門（B部門）代表評議員の交代について」に基づき、（故）林 敏之氏ご逝去に伴う交代であるとの説明があり審議の結果、次のとおり交代が承認された。

B部門代表評議員：（故）林 敏之氏→横山 茂氏（電力中央研究所）

3.13 規程類の改定

- （1）経営戦略会議 運営要綱（修正案）（資料13）
- （2）企画委員会 運営要綱（修正案）（資料14）
- （3）総務会議 運営要綱（修正案）（資料15）
- （4）次期部門長設置に伴う細則・関係規程類の改定【提案】（資料16）
- （5）総務・規程1-0-3「会議・委員会等出席者の交通費に関する申し合わせ」の改定について（資料17）
- （6）「部門、準部門の新設、廃止及び昇格、降格等に関する規程（申し合わせ）（総務・規程1-0-5）」改正のご提案（資料18）

上記（1）～（6）については、各担当会議体において審議済みの案件のため、詳細な説明は割愛され、ご意見の有無を確認した結果、特に無く原案どおり改定することが承認された。

3.14 会員入（退）会の承認

島田事務局長から資料19「2006年7月～2006年9月会員入（退）会の承認について」に基づき、次のとおり説明があり審議の結果、承認された。

・個人会員入会者数	603名	
・個人会員退会者数	340名	
・事業維持会員入会数	3社	（3口）
・事業維持会員退会数	1社	（2口）
・事業維持会員口数変更	—社	

これにより平成 18 年 9 月末の会員数は個人会員 24,690 名、事業維持会員 474 社(3,292 口)となった。

また、事務局から事業維持員で今回退会となった東立通信工業(株) (2 口) は、去る 8 月 3 日付けで倒産の連絡があり同月 7 日付けで退会処理済みであるとの補足説明があった。

4. 報告事項

- (1) 国債購入について (資料 20)
- (2) CPD システム試験運用開始のご報告とご協力のご依頼 (資料 21)
- (3) フェロー制度の運用開始と候補者ご推薦のお願い (資料 22)
- (4) 海外在住の外国人会員増員のためのメリット検討に伴うアンケート調査の実施について (ご報告)、他 (資料 23)
- (5) 「My ページを見て上級会員になろうキャンペーン」の実施 (ご報告) (資料 24)
- (6) 全国大会委員会運営要綱改訂 (「全国大会委員会小委員会」設置)に伴う上級会員ポイントの変更 (追加) (資料 25)
- (7) 国際標準化 100 年記念行事実施報告【速報】
- (8) 事業概況報告 (平成 18 年 9 月末日現在) (資料 26)

内藤総務企画理事から、報告事項の上記(1)～(8)については、すでに理事会各メンバーの「My ページ」に資料がアップされており、事前に確認済みであるが質問等の有無を確認した結果、特になかったため報告を割愛した。

5. その他

(1) 平成 18 年度『電気学会主催 公開シンポジウム』開催について

島田事務局長から、資料 28「平成 18 年度『電気学会主催 公開シンポジウム』開催について」に基づき、次のとおり報告および依頼があった。

- ・開催日時 平成 19 年 1 月 13 日 (土) 午後
- ・開催場所 東京電機大学 神田キャンパス 7 号館 丹羽ホール
- ・テーマ案 電気はどうやって運ばれるの?—大停電を防ぐには—
- ・パネリストについては、電力・エネルギー (B) 部門へ選出を依頼中である。
- ・平成 19 年度電気学会主催 公開シンポジウムの「テーマ案」と「伝えたいこと (意図する処)」などを 11 月 30 日までに事務局 (事業サービス課) へご提案頂きたい。

(2) 役員候補者選定・選出規程細目／部門役員候補者選定・選出規程細目／支部役員候補者選定・選出規程細目について

紀国谷課長から、資料 27「役員候補者選定・選出規程細目／部門役員候補者選定・選出規程細目／支部役員候補者選定・選出規程細目、他」に基づき、規程上で候補者は 1～3 名の推薦が可能であり、自薦もできる旨の紹介があった。

以上、すべての議案の審議を終了し 17 時に閉会した。

平成 18 年 12 月 6 日

社団法人 電気学会

議事録署名人

議事録署名人

議事録署名人